

表6 門脈血行異常症患者の画像検査所見

項目	IPH (N=17)		EHO (N=5)		BCS (N=16)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
肝萎縮	6	(35)	0	(0)	8	(50)
肝腫大	3	(18)	0	(0)	7	(44)
肝腫瘍	1	(6)	0	(0)	3	(19)
脾腫	17	(100)	4	(80)	11	(69)
肝内門脈血栓	4	(24)	1	(20)	2	(13)
肝外門脈血栓	3	(18)	3	(60)	2	(13)
肝内門脈	正常	9 (53)	3 (60)	13 (81)		
	狭窄	4 (24)	1 (20)	3 (19)		
	閉塞	4 (24)	1 (20)	0 (0)		
肝外門脈	正常	13 (76)	0 (0)	15 (94)		
	狭窄	3 (18)	1 (20)	1 (6)		
	閉塞	1 (6)	4 (80)	0 (0)		
下大静脈	正常	16 (94)	5 (100)	4 (25)		
	狭窄	1 (6)	0 (0)	6 (38)		
	閉塞	0 (0)	0 (0)	6 (38)		
右肝静脈	正常	16 (94)	5 (100)	2 (13)		
	狭窄	1 (6)	0 (0)	6 (38)		
	閉塞	0 (0)	0 (0)	8 (50)		
中肝静脈	正常	16 (94)	5 (100)	1 (6)		
	狭窄	1 (6)	0 (0)	7 (44)		
	閉塞	0 (0)	0 (0)	8 (50)		
左肝静脈	正常	16 (94)	5 (100)	4 (25)		
	狭窄	1 (6)	0 (0)	7 (44)		
	閉塞	0 (0)	0 (0)	5 (31)		
肝静脈	正常	17 (100)	5 (100)	7 (44)		
	一枝閉塞	0 (0)	0 (0)	2 (13)		
	二枝閉塞	0 (0)	0 (0)	2 (13)		
	三枝閉塞	0 (0)	0 (0)	5 (31)		

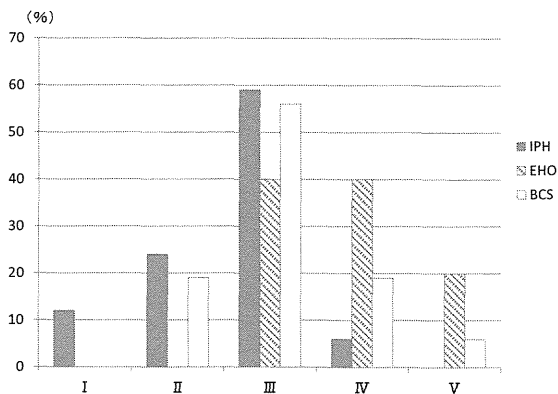


図1. 診断時の重症度

8) 診断後に手術、死亡に至った症例

経過中、IPH の 6 人 (35%)、EHO の 1 人 (20%)、BCS の 9 人 (56%) が、手術療法を施行されており、うち IPH の 6 人は総て脾腫に対する治療であった。BCS では閉塞狭窄部の治療を 6 人、静脈瘤の治療を 2 人、肝移植を 1 人に施行されていた。術後、8 割強の患者は軽快を示したが、IPH で脾動脈塞栓術を受けた 1 人に悪化を認めた。

経過中の死亡例は、認めなかった。

D. 考察

「門脈血行異常症に関する調査研究班」の班員が所属する医療機関合計 14 施設を「定点」として、門脈血行異常症患者を登録するシステムを平成 24 年より開始した。

平成 21 年以降に診断された 38 人の患者について検討したところ、IPH では全例が確定診断に「生検」を用いていると考えられたが、EHO、BCS では画像所見などから診断している例もあることが示唆される。また、「発病時年齢が不明の者」の分布や「発病から診断までの経過時間」をみると、EHO や BCS に比し IPH では診断が困難であることがうかがえる。

家族歴を有した者は IPH の 1 人のみと少ないため、現時点では家族歴が疾患の発生に関連しているかどうかを判断することはできない。一方、飲酒歴に関しては、2010 年の国民健康・栄養調査の結果と比べても、BCS 患者で飲酒歴を有する者が多いと考えられた。従って、BCS の発生に飲酒習慣が関与している可能性が考えられるため、今後、分析疫学手法によりその因果性を検討することが必要となろう。

診断時の主要な症状として、脾腫、吐下

血、腹水、などが挙げられる。また、食道静脈瘤を約 8 割、胃静脈瘤を約半数に認めた。これらの情報は、門脈血行異常症の臨床所見について、現状をあらわす指標となろう。

門脈血行異常症は患者数が非常に少ないため、登録数の蓄積には時間を要する。しかし、今後のさらなる登録蓄積により、門脈血行異常症の実態をあらわす、貴重なデータベースとなることが期待できる。

E. 結論

門脈血行異常症患者の臨床疫学特性をモニタリングするため、平成 24 年度より定点モニタリングシステムを実施中である。本システムは、今後のさらなる登録蓄積により、門脈血行異常症の実態をあらわす、貴重なデータベースとなろう。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業)
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究
分担研究報告書

検体保存センターの現状と課題

研究分担者 橋爪 誠 九州大学大学院先端医療医学 教授

研究要旨 はじめに:門脈血行異常症研究班の対象とする IPH, BCS, EHO の病因は未だ不明である。3疾患は、全国的にみても症例数が少なく、系統的な疾患の研究解析が困難であるのが現状である。対象と方法:現在の厚生労働省の倫理指針に沿った新しい検体保存センターの再編として、1. 倫理審査委員会の設置(検体提供施設、検体保存施設、検体解析施設) 2. 匿名化のシステムが確立 3. 同意書取得を網羅したシステムづくりを行ってきた。検体は臨床データ(個人調査表)と匿名連結可能なようにし、各研究者が共有できるものとした。結果:平成18年に九州大学にてヒトゲノムに関する倫理委員会の承認の後、研究班班員のほとんどの施設でヒトゲノム倫理審査委員会の承認を得た。登録状況は現在75症例(内IPH:11例、EHO:3例、BCS:27例)であった。考察:各施設での倫理審査委員会の承認施設が増えたことにより、症例は増加している。また、BCSにおける発癌に関する研究、BCSの発症にかかわる凝固因子遺伝子の解析、IPHにおける網羅的な遺伝子解析等にも検体保存センターは活用され、病態解析が進んだ。結語:今後も登録症例の増加が見込まれ、病態解析に本センターのシステムは寄与するものと考えられる。

共同研究者

赤星朋比古 九州大学大学院
先端医療医学

A. 研究目的

平成18年3月、厚生労働省の倫理指針に沿った新しい検体保存センターが、九州大学大学院医学研究院倫理委員会およびヒトゲノム・遺伝子解析倫理審査専門委員会により承認されたが、検体を解析する施設はもとより登録する施設にも施設倫理委員会の承認が必要となった。各施設での倫理委員会の承認状況と登録症例の現状について検討した。

B. 研究方法

現在の厚生労働省の倫理指針に沿った新しい検体保存センターの再編として、1. 倫理審査委員会の設置(検体提供施設、検体保存施設、検体解析施設) 2. 匿名化のシステムが確立 3. 同意書取得を網羅したシステムづくりを行った。これにより検体提供施設は分担研究者施設のみに限定した。また門脈血行異常症の検体だけでなく、健常人、肝硬変、非肝硬変肝疾患患者の対照群についても検体保存す

ることとした。検体は臨床データ(個人調査表)と匿名連結可能なようにし、各研究者が共有できるものとした。具体的には調査対象:IPH,EHO,BCS、対照群:肝硬変、非硬変性疾患(転移性肝癌、胃癌、脾嚢胞など)、健常人とした。採取される試料の種類と量については、血液(30ml以下)、肝組織(ホルマリン・凍結:肝切除症例、3g以下)脾組織(ホルマリン・凍結:脾摘症例、3g以下)とした。(図1)

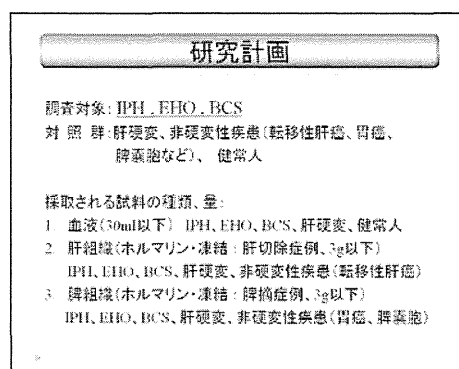


図1

検体保存センターの流れとしては図2の如く倫理委員会承認施設にて、患者から

の同意を得、検体を連結可能匿名化した後にエスアール社にて検体の回収とDNA抽出を行い九州大学にある検体保存センターにて登録保存する。

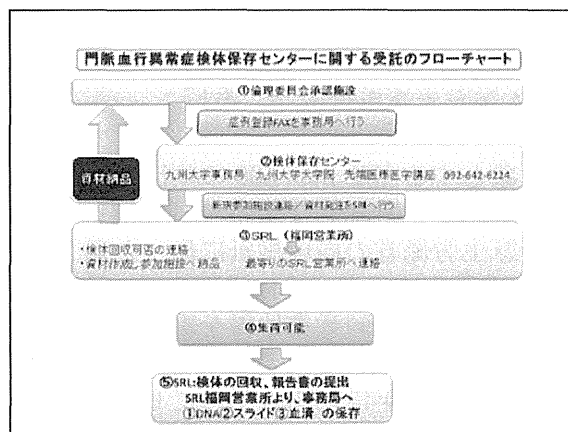


図 2

C. 研究結果

平成 26 年 12 月現在までにヒトゲノム倫理審査委員会の承認が得られている施設は九州大学、長崎大学、大阪市立大学、大分大学、琉球大学、昭和大学、久留米大学医学部、東京医科大学、名古屋大学、山口大学である。現在の登録状況は 73 症例で、IPH が 11 例、EHO が 3 例、BCS が 27 例であった。本年度は特に、長崎大学からの症例登録の協力により、門脈血行異常症と比較するための肝硬変症例が 31 例となった。(図 3)

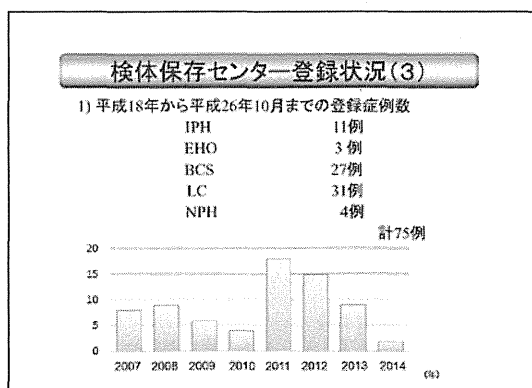


図 3

現在、登録症例においては、久留米大学と琉球大学の共同研究による BCS における酸化ストレスの研究、大阪市立大学による九州大学における IPH 症例の遺伝子の網羅的解析というように、当研究班な

らではの大学の垣根のない共同研究の実施が実現してきている。

検体保存センターの活用状況

1. Budd-Chiari 症候群における肝臓の酸化ストレスに関する病理学的検討 (パラフィン切片)
2. 門脈血行異常症におけるプロテインC遺伝子変異解析 (cDNA)
3. IPH患者におけるDNAチップを用いた網羅的遺伝子解析 (脾臓抽出RNA)
4. IPHにおける抗血管内皮細胞抗体の出現と病態形成への関与 (血清)

D. 考察

ヒトゲノム遺伝子検査における指針の改定により、検体登録および解析施設には、倫理委員会審査および承認の必要性が生じた。それに伴い、検体登録施設は、倫理委員会の設置される協力施設のみでなければ登録できず、症例登録が増加しない状況であった。しかしながら、図 3 に示す如く、倫理委員会の承認の得られた施設の増加に伴い登録症例数が増えてきている。今後もこのペースで症例の登録が進むよう引き続き各施設に働きかけることは、当検体保存センターの役目でもあると考える。

E. 結論

本年度までに研究分担施設の倫理委員会の承認が多く得られ、それに伴い、登録症例数も増加した。本班会議の意図する、稀少疾患の集約と体系的研究の推進を図る上での体制は確立されたものとする。今後は、新しい研究体制の下で研究分担者が考える病態解明の解析研究が円滑にすすむように、検体の保存と円滑な供給の体制を維持していきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし。
2. 学会発表
未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし。
2. 実用新案登録
該当なし。
3. その他
なし。

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
Moriyasu F	Micro-and nanobubbles: Fundamentals and applications, 9 Medical field, 9.2 Contrast-enhanced ultrasound using microbubble contrast agent	Editor: Tsuge H	Pan Stanford publishing Pte.Ltd.,	Pan Stanford publishing Pte.Ltd.		262-287	2014
古市好宏, 森安史典	難治性肝疾患の診療を極める ～基本から最前線まで～, その他の肝疾患編: 門脈血行異常症 I 基本編 1 特発性門脈圧亢進症	編: 大平弘正*, 坂井田功*, 竹原徹郎*, 持田 智	Hepatology Practice 第4巻	文光堂		292-297	2014
森安史典	肝癌の診療を極める～基本から最前線まで～, II. 診断編 A. 肝細胞癌編 1. 超音波検査	編: 金子周一*, 竹原徹郎*, 持田 智	Hepatology Practice 第5巻	文光堂		36-40	2014
杉本勝俊, 森安史典	超音波 造影エコー (肝臓) の進歩	監: 谷口信行*, 依藤史郎*	臨床病理レビュー特集第151号 そこが知りたかった! —生理機能検査 最新の動向—	克誠堂出版		103-111	2014
中山伸朗, 持田 智	予後予測のデータマイニング	大平弘正ほか	Hepatology Practice Vol. 4, 難治性肝疾患	文光堂	東京	247-251	2014
Takahashi A, Abe K, Ohira H	Nonalcoholic steatohepatitis-autoimmune hepatitis overlap.	Ohira H	Autoimmune liver Diseases	Springer	Tokyo	127-136	2014
Abe K, Takahashi A, Ohira H	Management of the patients with feature of autoimmune hepatitis.	Ohira H	Autoimmune liver Diseases	Springer	Tokyo	227-286	2014
大平弘正	自己免疫性肝炎	山口 徹, 北原光夫	今日の治療指針	医学書院	東京	517-518	2014
大平弘正	自己免疫性肝炎を合併したC型肝炎～診断と治療のポイント～	榎本信幸, 竹原徹郎, 持田 智	HEPATOLOGY PRACTICE VOL 3、C型肝炎の診療を極める	文光堂	東京	218-222	2014

大平弘正	AIHの診断	大平弘正, 坂井田功, 竹原徹郎, 持田 智	HEPATOLOGY PRACTICE VOL 4、難治性肝 疾患の診療を 極める	文光堂	東京	58-61	2014
大平弘正	自己免疫性肝炎	日本消化器病 診療 (第2版) 編集委員会	消化器病診療	医学書院	東京	156-159	2014
Hiromasa Ohira	Diagnosis of Autoimmune Hepatitis	H Takahashi, N Watanabe, A Ikeda, K Yoshizawa, A Matsumoto, T Umemura, K Harada, M Zeniya, M Abe, M Onji, Y Miyake, T Arinaga- Hino, T Ide, M Sata, T Fujisawa, A Takahashi, K Abe, H Ohira, S Shimoda, M Nakamura, Y Moritoki, Y Ueno, J Hirohara, T Nakano, T Seki, K Okazaki, H Ishibashi, Y Nakanuma, H Tsubouchi, Y Kakuda, A Komori, A Tanaka, S Iwasaki, K Moritoki, Y Abe, T Genda, T Ichida	Autoimmune Liver Diseases	springer, com	Germany	67-81	2014
鈴木義之	AIHはウルソデオキ シコール酸単独治 療でコントロール 可能か	大平弘正, 坂井田功, 竹原徹郎, 持田 智	難治性肝疾患 の診療を極め る	文光堂	東京都	111-113	2014
Abe M, Onji M	Acute presentation of autoimmune hepatitis.	Ohira H	Autoimmune Liver Disease in Japan.	Springer	Tokyo	83-94	2014
阿部雅則	AIHの疫学	大平弘正, 坂井田功, 竹原徹郎, 持田 智	Hepatology Practice vol. 4 難治性肝疾患 の診療を極め る.	文光堂	東京	31-34	2014

<u>Kaname Yoshizawa, Akihiro Matsumoto, Takeji Umemura</u>	Part I Autoimmune hepatitis 3 Epidemiology and natural history in Japan.	Hiromasa Ohira	Autoimmune Liver Diseases	Springer	Tokyo	37-44	2014
吉澤 要	自己免疫性肝炎	福井次矢, 高木 誠, 小室一成	今日の治療指針2015	医学書院	東京	541-542	2015
<u>Komori A.</u>	Autoantibodies in Primary Biliary Cirrhosis.	Hiromasa Ohira	Autoimmune Liver Diseases: Perspectives from Japan	Springer	Tokyo	pp233-247.	2014
<u>Nakamura M.</u>	Genetic analysis of primary biliary cirrhosis.	Hiromasa Ohira	Autoimmune Liver Diseases. Perspectives from Japan	Springer	Tokyo	157-169	2014

雑 誌

著者名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	発行年
Honjo M, <u>Moriyasu F</u> , Sugimoto K, Oshiro H, Sakamaki K, Kasuya K, Nagai T, Tsuchida A, Imai Y	Relationship between the liver tissue shear modulus and histopathologic findings analyzed by intraoperative shear wave elastography and digital microscopically assisted morphometry in patients with hepatocellular carcinoma	J Ultrasound Med	33(1)	61-71	2014
Sugimoto K, <u>Moriyasu F</u> , Saito K, Yoshiara H*, Imai Y	Kupffer-phase findings of hepatic hemangiomas in contrast-enhanced ultrasound with sonazoid	Ultrasound Med Biol	40(6)	1089-109	2014
Takara K, Saito K, Saguchi T, Sugimoto K, Taira J, Imai Y, <u>Moriyasu F</u> , Akata S, Tokuyue K	Is diffusion-weighted imaging a significant indicator of the development of vascularization in hypovascular hepatocellular lesions?	Clin Imaging	38(4)	458-463	2014
Sugimoto K, Oshiro H, Ogawa S, Honjo M, Hara T*, <u>Moriyasu F</u>	Radiologic-pathologic correlation of three-dimensional shear-wave elastographic findings in assessing the liver ablation volume after radiofrequency ablation	World J Gastroenterol	20(33)	11850-11855	2014
Kakutani H*, Sanada J*, Nakayama D*, <u>Moriyasu F</u>	Catheter-retaining balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for gastric varices	J Nippon Med Sch	81(5)	298-304	2014
Sugimoto K, Saguchi T, Saito K, Imai Y, <u>Moriyasu F</u>	Hemodynamic changes during balloon-occluded transarterial chemoembolization (B-TACE) of hepatocellular carcinoma observed by contrast-enhanced ultrasound	J Med Ultrason	41	209-215	2014
Sugimoto K, Kondo F*, Furuichi Y, Oshiro H, Nagao T, Saito K, Yoshida H*, Imai Y, Fukusato T*, <u>Moriyasu F</u> .	Focal nodular hyperplasia-like lesion of the liver with focal adenoma features associated with idiopathic portal hypertension	Hepatol Res	44(10)	E309-315	2014
Sugimoto K, <u>Moriyasu F</u> , Kobayashi Y, Imai Y	Assessment of irreversible electroporation ablation zone using Kupffer-phase contrast-enhanced ultrasound images with Sonazoid	J Med Ultrasonics	41(4)	531-532	2014
河合 隆, 佐藤丈征, 八木健二, 福澤誠克, 草野 央, 後藤田卓志, 森安史典	新しい画像強調内視鏡：第二世代画像強調内視鏡の臨床的意義 第二世代NBI 有用性と使用方法のコツ 細径経鼻内視鏡観察	消化器内視鏡	26(5)	691-697	2014
古市好宏, 河合 隆, 森安史典	経鼻内視鏡を用いたアルゴンプラズマ凝固法による集学的食道静脈瘤治療.	消化器内視鏡	26(11)	1919-1925	2014
森安史典	肝腫瘍へのアプローチ	INNERVISION	29(8)	107-110	2014

古市好宏, 森安史典	門脈圧亢進症の治療法の選択とその成績: 肝機能温存を目的とした集学的食道静脈瘤治療	消化器内科	59 (2)	171-175	2014
阿部和道, 高橋敦史, 大平弘正	自己免疫性肝疾患(PBC/AIH/PSC)の研究の進歩	Medical Science Digest	40 (9)	443-446	2014
大平弘正, 阿部和道, 高橋敦史	肝臓病診療のアップデート 自己免疫性肝炎	診断と治療	102 (11)	1715-1720	2014
大平弘正, 阿部和道, 高橋敦史	自己免疫性肝炎 急性肝炎様発症 AIHを整理する	肝胆臓	69 (6)	917-921	2014
Takahashi A, <u>Ohira H</u> , Abe K, Miyake Y, Abe M, Yamamoto K, Suzuki Y, Onji M, Tsubouchi H	Rapid corticosteroid tapering: Important risk factor for type 1 autoimmune hepatitis relapse in Japan.	Hepatol Res		in press	2014
Abe K, Takahashi A, Nozawa Y, Imaizumi H, Hayashi M, Okai K, Kanno Y, Watanabe H, <u>Ohira H</u> .	The utility of IgG, IgM, and CD138 immunohistochemistry in the evaluation of autoimmune liver diseases.	Med Mol Morphol	47 (3)	162-8	2014
Miyake Y, Yamamoto K, Matsushita H, Abe M, Takahashi A, Umemura T, Tanaka A, Nakamuta M, Nakamoto Y, Ueno Y, Saibara T, Takikawa H, Yoshizawa K, <u>Ohira H</u> , Zeniya M, Onji M, Tsubouchi H	Multicenter validation study of anti-programmed cell death-1 antibody as a serological marker for type 1 autoimmune hepatitis.	Hepatol Res	44 (13)	1299-307	2014
Katsushima F, Takahashi A, Sakamoto N, Kanno Y, <u>Ohira H</u> , Abe K,	Expression of micro-RNAs in peripheral blood mononuclear cells from primary biliary cirrhosis patients.	Hepatol Res	44 (10)	E189-97	2014
Monoe K, Takahashi A, Abe K, Kanno Y, Watanabe H, <u>Ohira H</u>	Evaluation of nail fold capillaroscopy findings in patients with primary biliary cirrhosis.	Hepatol Res	44 (10)	E129-36	2014
Kanno Y, Watanabe H, Takahashi A, Abe K, <u>Ohira H</u>	Anti-phosphoenolpyruvate carboxykinase 2 antibody in patients with autoimmune hepatitis	Hepatol Res	44 (9)	1019-25	2014
Oikawa T, Kamiya A, <u>Zeniya M</u> , Chikada H, Hyuck A. D, Yamazaki Y, Wauthier E, Tajiri H, Miller L. D., Wang X. W., Reid L. M., Nakauchi H.	Sal-like protein 4 (SALL4), a stem cell biomarker in liver cancers	Hepatology	57	1469-1483	2013

Minoru Nakamura, Hisayoshi Kondo, Atsushi Tanaka, Atsumasa Komori, Masahiro Ito, Kazuhide Yamamoto, Hiromasa Ohira, <u>Mikio Zeniya</u> , Etsuko Hashimoto, Masao Honda, Shuichi Kaneko, Yoshiyuki Ueno, Kentaro Kikuchi, Shinji Shimoda, Kenichi Harada, Kuniaki Arai, Yasuhiro Miyake, Masanori Abe, Makiko Taniai, Toshiji Saibara, Shotaro Sakisaka, Hajime Takikawa, Morikazu Onji, Hirohito Tsubouchi, Yasuni Nakanuma, Hiromi Ishibashi	Autoantibody status and histological variables influence biochemical response to treatment and long-term outcomes in Japanese patients with primary biliary cirrhosis	Hepatology Res	DOI: 10.1111/ hepr.124 23		2014
<u>Mikio Zeniya</u> , Takashi Wada	Immunosuppressive therapy for primary biliary cirrhosis: Do we need in future?	Hepatology Res	44	935-936	2014
<u>Mikio Zeniya</u> , Takash Wada	The therapeutic effect of UDCA is a factor in determining the prognosis of primary biliary cirrhosis	J Gastro	49	1438- 1439	2014

V. 班 員 名 簿

班 員 名 簿

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
研 究 代 表 者	滝川 一	帝京大学医学部内科学講座	主 任 教 授
研 究 分 担 者	森安 史典	東京医科大学臨床医学系消化器内科学分野	主 任 教 授
	田妻 進	広島大学病院総合内科・総合診療科	教 授
	持田 智	埼玉医科大学消化器内科・肝臓内科	教 授
	大平 弘正	福島県立医科大学消化器・リウマチ膠原病内科	主 任 教 授
	田中 篤	帝京大学医学部内科学講座	教 授
	銭谷 幹男	東京慈恵会医科大学大学院医学研究科 器官病態・治療学 消化器内科学	教 授
	國土 典宏	東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学	教 授
	井戸 章雄	鹿児島大学 医歯学総合研究科 消化器疾患・生活習慣病学	教 授
研 究 協 力 者	阿部 雅則	愛媛大学大学院医学系研究科 消化器・内分泌・代謝内科学	准 教 授
	鈴木 義之	虎の門病院分院臨床検査部	部 長
	藤澤 知雄	済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科	顧 問
	山本 和秀	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器・肝臓内科学	教 授
	吉澤 要	信州大学医学部内科学第二	特 任 教 授
	小森 敦正	国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター	部 長
	中村 稔	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症 病態制御学系専攻肝臓病学講座	教 授
	橋本 悦子	東京女子医科大学消化器内科	教 授
	廣原 淳子	関西医科大学内科学第三講座	准 教 授
	松崎 靖司	東京医科大学茨城医療センター消化器内科	教 授
	原田 憲一	金沢大学医学系研究科形態機能病理学	教 授
	玄田 拓哉	順天堂大学医学部附属静岡病院 消化器内科	准 教 授
	坂井田 功	山口大学大学院医学系研究科消化器病態内科学	教 授
	滝川 康裕	岩手医科大学消化器・肝臓内科	教 授
	森脇 久隆	岐阜大学大学院消化器病態学	学 長
	横須賀 收	千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学	教 授
	伊佐山 浩通	東京大学医学部消化器内科	准 教 授
	露口 利夫	千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学	講 師
	中沢 貴宏	名古屋市立大学消化器代謝内科学	病 院 教 授
	能登原 憲司	倉敷中央病院病理診断科	主 任 部 長
	森 俊幸	杏林大学医学部外科	教 授

	小原 勝敏 大藤 さとこ 鹿毛 政義 北野 正剛 橋爪 誠 福井 博 上本 伸二	福島県立医科大学 内視鏡診療部 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 久留米大学医学部病理学教室 大分大学 九州大学大学院医学研究院先端医療医学講座 奈良県立医科大学 第三内科 京都大学大学院医学研究科外科学講座 肝胆膵・移植外科分野	教授 講師 教授 学長 教授 教授 教授
事務局	田中 篤	帝京大学医学部内科学講座	
経理事務担当者	高橋 明夫	帝京大学板橋キャンパス事務部総務課	

VI. 平成 26 年度班会議総会プログラム・
公開報告会ポスター

厚生労働研究 難治性疾患等政策研究事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」
平成 26 年度第一回総会プログラム

主任研究者: 滝川 一 (帝京大学医学部内科学講座主任教授)

期日 : 平成 26 年 7 月 3 日(木) 13:30~16:30

場所 : ステーションコンファランス万世橋

東京都千代田区神田須田町 1-25 JR 神田万世橋ビル 3F・4F
TEL 03-6859-8200(代表)



- <JR> 秋葉原駅 電気街口徒歩 4 分、御茶ノ水駅 聖橋口徒歩 6 分、神田駅 北口徒歩 6 分
<東京メトロ> 銀座線神田駅 6 番出口徒歩 2 分、丸の内線淡路町駅 A3 出口徒歩 3 分、
日比谷線秋葉原駅 3 番出口徒歩 6 分、千代田線新御茶ノ水駅 A3 出口徒歩 3 分
<都営線> 都営新宿線小川町駅 A3 出口徒歩 3 分、都営新宿線岩本町駅 A2 出口徒歩 6 分
<つくばエクスプレス> 秋葉原駅 A1 出口徒歩 5 分

平成 26 年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」
事務局: 帝京大学医学部内科学講座 田中 篤
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL : 03-3964-1211 Ext.34647、FAX : 03-3964-6627
E-mail : a-tanaka@med.teikyo-u.ac.jp

開会	13:30
1. 主任研究者 挨拶 (研究代表者 滝川 一)	13:30~13:40
➤ 班研究の目的	
➤ 各分科会の役割について	
2. 各分科会での討議—分科会として取り組むべき課題について (3年間で達成すべき課題・年次計画、および平成26年度の研究計画)	13:45~14:50
➤ 研究計画案発表 (分科会会長)	
➤ 討議	
(休 憩 10 分)	
3. 全体討議—各分科会の研究計画発表・討議	15:00~16:00
➤ AIH 分科会 (大平)	15:00~15:12
➤ PBC 分科会 (田中)	15:12~15:24
➤ 肝内結石・硬化性胆管炎分科会 (田妻)	15:24~15:36
➤ 劇症肝炎分科会 (持田)	15:36~15:48
➤ 門脈血行異常症分科会 (森安)	15:48~16:00
4. 事務局連絡	16:00~16:10
➤ 平成26年度第2回総会の日程	
➤ 事務処理について	
5. 厚生労働省健康局疾病対策課 ご挨拶	16:10~16:20
6. 閉会の挨拶 (研究代表者 滝川 一)	16:20~16:25
閉会	16:25

厚生労働研究 難治性疾患等政策研究事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」
平成 26 年度第二回総会プログラム

主任研究者: 滝川 一
(帝京大学医学部内科学講座主任教授)

期日 : 平成 27 年 1 月 29 日(木) 10:00~16:30

場所 : ステーションコンファランス東京
6階 605A+B+C

(分科会会場 : 4階 402-A、402-B)

平成 26 年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業
「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」
事務局: 帝京大学医学部内科学講座 田中 篤 (秘書 畔野 カヨノ)
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL : 03-3964-1211 Ext.34647、FAX : 03-3964-6627
E-mail : a-tanaka@med.teikyo-u.ac.jp

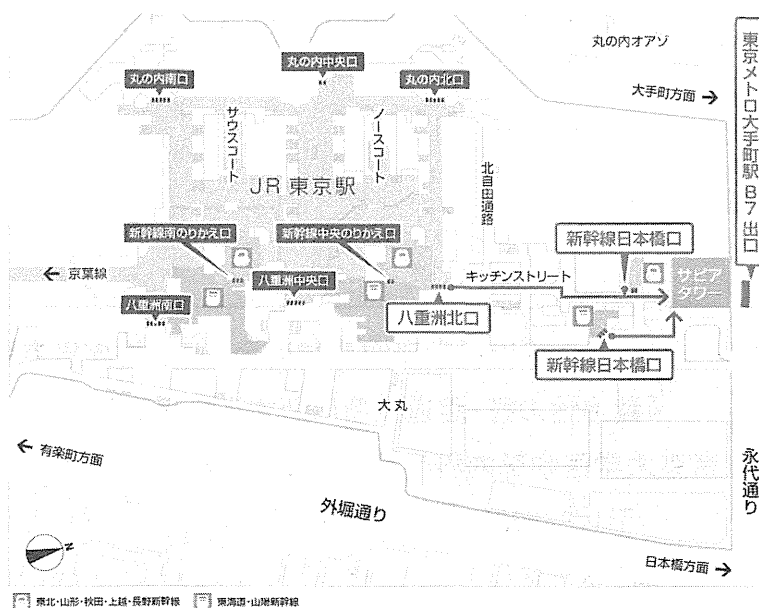
<会場のご案内>

ステーションコンファランス東京

東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー4~6F

TEL 03-6888-8080(代表)

- ・JR 東京駅日本橋口直結
新幹線日本橋口改札徒歩1分、八重洲北口改札徒歩2分
- ・東京メトロ東西線大手町駅 B7 出口直結



* 第一回総会で使用したステーションコンファランス万世橋とは異なる会場です。
ご注意ください。